



広島大学



島根大学

フォーラム

「若手研究者の育成に資する評価は、どうあるべきか考える」

趣旨説明

広島大学副学長（ダイバーシティ担当）石田 洋子

本フォーラム開催の背景



広島大学



島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

- ◆ 「評価」とは、ある基準に照らして、事物、人物、組織、社会プログラム等の**能力やプロセス、成果に対して価値判断を行うこと**であり、本来は、進捗状況を確認し、フィードバックを得て改善するための建設的行為である。
- ◆ 「評価」を実施する際には、その**対象や目的を明確にし、適切に実施するための評価基準や評価の仕組みを仕立てる (tailor)**ことが必要とされる。
- ◆ 現状では、評価結果が説明責任は果たしても、資源配分や研究環境改善に必ずしも反映されず評価の意義が見えない。負担感ばかりが増して評価疲れも指摘される。
- ◆ 科学技術や学術の分野では、政策レベルの評価、組織評価、研究開発プロジェクト評価、研究者に対する業績評価等々、様々な評価が実施されている。
- ◆ 大学研究者に直接関係する「評価」として、研究開発プロジェクト評価、研究者業績評価が挙げられる。これらの「評価」を、**女性・若手研究者の意欲を増し、育成に資する有効なツール**とするにはどのような方策が考えられるのか。
- ◆ この命題に応えるべく、広島大学及び島根大学で実施中の女性・若手研究者支援の4事業は、研究者評価を主テーマとしたフォーラムを共同開催することとした。

女性・若手研究者支援事業の紹介 (1/4)



□ 文部科学省 世界で活躍できる研究者戦略育成事業

「地方協奏による世界トップクラスの研究者育成(HIRAKU-Global)」

- 実施期間: 令和元年度～10年度
- 代表機関: 広島大学、共同実施機関: 山口大学、徳島大学、愛媛大学
- 目的: 「自分の研究室を運営し、学生を育てつつ、さまざまな分野の国内外の研究者と連携し、独自の研究感性を磨き、世界でもユニークな研究を牽引していくことができる研究人材」の育成
- 主な活動:
 - 選抜されたテニュアトラック教員に対して、スタートアップ経費や中長期海外派遣経費等の支援の他、複数メンターによる助言、国際共同研究の実践をともなう能力開発等の機会を提供
 - 若手研究者同士がネットワークを形成し、多様な学際領域に触れ、切磋琢磨し、ともに高めあう環境を用意するとともに、将来的に本取組をリードし、マネージし、メンタリングする役割も担っていけるようなプラットフォームを構築
 - 本プログラムを通じて若手研究者の国際的なビジビリティ向上とキャリアの好循環を実現するとともに、国際ネットワークの質的強化、国際共同研究の活性化を推進

女性・若手研究者支援事業の紹介 (2/4)

□ 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)

「地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための調査分析」

- 実施期間: 令和5年度～6年度
- 代表機関: 広島大学共同実施機関: 島根大学)
- 目的: 海外の大学及び研究機関における優れた取組について、多様性(Diversity)、公平さ(Equity)、包摂性(Inclusion)を重視した研究環境づくりの現状と課題を調査分析し、政策提言書を策定する
- 主な活動:
 - 日本及び対象国の政策及び組織に関する事前調査分析
 - 対象国(米国、スウェーデン、ドイツ、韓国)における大学及び研究機関からの情報収集
 - 収集データの分析と学内インタビュー、提言書の作成
 - 情報共有フォーラム、総括シンポジウムの開催

□ 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)

「女性科学技術フェロシップ制度の創設による次世代の積極的育成」

- 実施期間: 令和3年度～8年度
- 実施機関: 広島大学
- 目的: 今後、理工系の女性教員を増やすためには、女性学生の理工系への進学を促進する魅力的な研究環境作りが急務となっていることから、本プログラムを通じて、研究者を志す理工系の女性学生を増加させる。
- 主な活動:
 - 理工系の女性の大学院生を対象に女性科学技術フェロシップ制度の創設と運用
 - 女性研究者の研究効率向上のために、研究データ管理基盤の利用等、研究DXを推進
 - 英国Vitaeが開発し、20カ国200以上の研究機関で用いられている研究者開発フレームワーク(Researcher Development Framework: RDF)を基盤とした若手研究者ポートフォリオHIRAKU-PFを活用し、女性研究者の研究力向上やトランスファラブルな能力の開発を強化

女性・若手研究者支援事業の紹介 (4/4)

□ 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク～多様な力で地球の未来をつくる～」

- 実施期間: 令和元年度～6年度
- 代表機関: 島根大学, 共同実施機関: 島根県立大学, 松江工業高等専門学校, 米子工業高等専門学校
- 目的: 4機関が連携して、地域における協力機関の協力を得ながら、地域に根差しつつ国際的に活躍できる女性研究リーダーを持続的に育成し輩出する仕組みを構築し、山陰全域のダイバーシティ推進を牽引し、活力にあふれる地域づくりを先導する。
- 主な活動:
 - ダイバーシティ推進のための学内制度の整備
 - 「SAN' INダイバーシティ推進ネットワーク」を通じた地域ステークホルダーとの対話促進
 - 女性教員の積極採用と上位職登用
 - ロールモデル提示やキャリアデザイン支援など、女性研究者のすそ野拡大
 - メンター制度の整備や研修、研究交流の強化など、女性研究リーダー育成

本フォーラムの目的

- ✓ 女性・若手研究者は研究活動の過程で、外部資金獲得に関連する評価や研究業績評価、学生による教員評価など、何度も「評価」を受けている。
- ✓ 女性や若手に対する無意識の偏見による評価の公正性への影響も指摘される。
- ✓ 「評価」を女性・若手研究者育成に有効なツールとするには、「評価を通して、被評価者の研究意欲が高まること、研究成果の向上に資すること」を評価の目的の一つとして明示的に示して評価システムを仕立て(tailor)、実践すべきではないか。そこには、評価実施者側だけでなく、被評価者側の意識変革も必要であろう。では、どのような戦略で、どのような活動を行っていけばいいのか。
- 本フォーラムは、広島大学及び島根大学で実施中の4事業から得られた知見・経験を共有し、上記命題への手がかりを探ることを目的とする。
- 今後も、この命題について議論を深めるために、多様なステークホルダーが参加し、具体的アクションに繋がられる「研究者評価フォーラム(公開討論の場)」づくりにつなげたい。